

(2)その他,特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果,世界的位置付け(ISI citation など)など。*ISI データのない場合は,可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
<p>特筆すべき教育活動</p>	<p>1.高等教育開発推進センターが推進する国際連携活動(ICRP)にコアメンバーに引き続き3名を出し、センターと教育学部と協力して、さまざまな先進的FDプログラムを開発。提携先のスタンフォード大学(S大)との連携事業実施で三石(現在S大滞在中)中島両准教授が活躍。さらに両名は東北大学でのFD国際シンポジウムの開催、10月のIT活用教育国際ワークショップ開催(準備中)で中核的存在であり、その活動は国内水準を大きく超えている。</p> <p>2.「教育部の授業」の完全ISTU化に取り組んできている。通常大学では先駆的な取り組みである。</p>	<p>1.同左の中島助教授がS大滞在中に共同開発した海外研修モデルを米国のFD関連学会(POD)で発表し、ユニークな取り組みとして注目された。</p>
<p>特筆すべき研究活動</p>	<p>1.科研費事業特定領域研究「新世紀理数科系教育の展開研究」の事務局(萩原名誉教授)を5年間務め、総合評価Aを受け、引き続き成果発表と普及のため活動の事務局機能を継続中。</p> <p>2.北村准教授は、8月のWorld Council for Gifted and Talented Children(UK)で、科学領域の国際的賞を受賞した日本の科学者の才能開花について、遡及的質的にその体験を分析し、その過程を物的人的環境支援、問いと追求、創造性の発揮の3つの要素でモデル化し、才能教育を進め方や高等教育機関やIT・遠隔教材等を積極的に利用する方略も視野に入る事を示し注目された。</p> <p>3.岩崎教授、三石准教授、橋本客員准教授と工学研究科がグループ組み、幾つかのサブグループで実施した種々のIT活用教育の研究成果を各種の国際会議等で発表してきている。</p>	<p>1.部局ISTU支援室では、渡部教授、熊井助教授、為川助手が医学系研究科へ強力な支援を実施し授業6割の授業のデジタルコンテンツ化に成功した。世界にも余り例が無い。</p> <p>2.北村助教授らのグループが日本スポーツ心理学会にて論文賞を受賞</p>
<p>特筆すべき社会貢献活動</p>	<p>1.本年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座の全てを研究部が引き受けて実施中である。1)北村准教授 1講座(5コマ分)(実施済みで、120名を集め人気を博した)2)村木教授 1講座(5コマ分)3)熊井助教授、中島助教授、泉山助手、為川助手、大河助手 1講座(5コマ分)。</p> <p>2.東北大学オープンキャンパスで、独立大学院として積極的に参加。修士院生の研究テーマ紹介を兼ねて、市民に対して広くIT教育を中心に部局の説明をし、説明責任を果たしてきている。</p> <p>3.東北大学イノベーションフェア2007 in 仙台(10月)に文科系部局とされている部局から2件:“ISTU活用の成果”と“日米間リアルタイム遠隔授業(セミナー)”の成果をデモ展示予定。</p>	<p>1.18年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座を北村助教授と村木教授で3講座を実施した。</p> <p>2.東北大学イノベーションフェア2007 in 東京に1件発表。</p>